バングラデシュ内政勉強会メモ

平成 16 年 3 月

藤田

１．何故主要２大政党はかくも対立するのか

●ムジブル・ラーマン、ジアウル・ラーマン暗殺の後遺症

●「A winner takes all」、野党は当初から与党との一切の妥協を拒否する

●政党内で反対意見が出にくい、党内民主主義

●独立までの政治運動は常に反何々運動であった

●バングラデシュ国民のアイデンティティが政治の場で二分化された

２．バングラデシュ国民のアイデンティティ

●「イスラム教」・「ベンガル人」の二つのアイデンティ

「ベンガル人性とムスリム性は容易に融合するものではなく、深層では対立関係にあると考えられる。ベンガルのムスリム社会集団では、伝統的に西方からの移住者からなるアシュラフ(貴人)層と、土着の改宗者からなるアトラフ層に区分されてきた。聖地メッカに近い所に祖先の地を持つ家ほど、ムスリム社会集団における「浄性」が高いこととなる。つまり、ムスリム性はベンガル人性を否定するに従って高まるという関係にある」(臼田雅之「文化の特徴」臼田他編『もっと知りたいバングラデシュ』弘文堂、1993 年、p.95 注(1))

●イスラムへの傾斜

「ひとたび自分たちの国家バングラデシュが成立すると、ベンガル人であることだけに依存するだけでは統合の基盤としては不十分であり、ムスリム性が呼び出されざるをえない。イスラム国教化政策は、その結果にほかならない。」(同上、p.95)

●バングラデシュは独立までに２枚のアイデンティ上のカードを切った、ベンガル人としてのアイデンティを基礎に２枚目のカードを切ったことは、１枚目のカードが間違いであったことを暗示する、結果的に「ムスリム性」と「ベンガル人性」との間で緊張関係を生んだ

●独立時に既にアイデンティティ上の不安定さを内包していた

●ムジブル・ラーマン暗殺後のイスラムへの傾斜

●現在の二大政党の対立はアイデンティ上の二分化と重なっている面がある

●タリク・マスードの映画「Clay Bird」が示唆するところ

３．過去３回の総選挙

●両党の得票率はいずれの選挙においても増加、殆どの有権者は支持政党を変更していない、両党間での票の移動は非常に少ない

●アワミ連盟の得票率の増加（＋１０％）は純増、農村部における新規有権者を吸収した

● BNP 支持者はアワミ連盟ほど増加していない、得票率の増加（＋１０％）の殆どはジャマティ支持者の票を吸収したもの、ジャマティの得票率は減少（－８％)、両党の得票率の合計の増加は少ない（３％弱）

●都市部が選挙の流れを端的に表現

●選挙結果を左右しているのは、他党との協力関係、新規有権者の動向、都市部から地方に波及する世論の動向

●２００１年選挙でのＢＮＰの勝利の要因は、ジャマティとの共闘、アワミ連盟に比し強力な候補者を選んだこと

●アワミ連盟が選挙で勝つためにはＢＮＰとジャマティの共闘は高いハードル、アワミ連盟と国民党との協力

●ＢＮＰはジャマティと協力した選挙では勝利し、協力しなかった選挙では敗れた、これまでいずれの政党も２回続けて勝利していない

４．現在の状況をどう見るか

●アワミ連盟による反政府運動の激化、国民の支持なし、アワミ連盟は議席喪失まで国会ボイコットを続けるか

●Ｂ．チョウドリー元大統領の動き、バングラデシュの政治は政党活動家の動員政治、政党ができたとしてもこのような下部組織を築くことができない

●ＢＮＰとジャマティとの関係は常に微妙な問題を内包

●両政党に対する不満が政治上の力となり得ない、不満を吸収する政治上受け皿は生まれていない

●民主主義の核となるある程度の所得・教育を有する政治的に中立な中産階級の層の薄さ、経済に関係する問題

●経済が発展するためにも安定した政治状況は不可欠、政治と経済は車の両輪、改善の糸口は政治から

（了）